

平成30年度第5回まちづくり懇談会  
「八木が谷地区社会福祉協議会」

1. 日 時：平成30年8月25日（土）  
午前10時00分～午前11時00分
2. 場 所：八木が谷公民館
3. 次 第
  - (1) 出席者自己紹介
  - (2) 市長挨拶
  - (3) 団体紹介
  - (4) 懇談
  - (5) 集合写真
4. テーマ：福祉のまちづくり

**【議題】**

- ①福祉のまちづくりについて  
市が目指している「福祉のまち」のイメージ・構想をお聞かせください
- ②地域包括ケアシステム実現のための具体的なマイルストーンについて
- ③ボランティアの確保と育成について

---

○団体

本日はお忙しい中、まちづくり懇談会を開催していただき、心より感謝申し上げます。

八木が谷地区社会福祉協議会では、市が目指している地域包括ケアシステムを推進するための活動をしております。本日は現場の状況を把握していただき今後の福祉のまちづくりに役立てていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○市長

皆さん、おはようございます。今日は日ごろから大変お世話になっている八木が谷地区社協の皆さんとの懇談会ですが、八木が谷地区は本当にまとまりが

よく、皆さんが連携しながら非常に活発に事業をやっている地域であると感じています。

普段、なかなか細かな点でのやりとりまでは十分にできていないので、是非とも皆さんの率直なご意見やご感想をお聞かせいただき、勉強させていただきたいと思いますのでよろしくをお願いします。

#### ○団体

ありがとうございました。それでは1つめの提案をさせていただきます。

地区社協では現在、定例事業のミニデイサービスや子育てサロン、ふれあい・いきいきサロン、キッチンパパ、ボランティア育成、そのほか公民館との共催のリハビリ体操教室、健康セミナーや、在宅支援センターとの共催によりますオレンジカフェ（※）などを行っています。

（※）オレンジカフェ・・・認知症カフェの通称。認知症になってもできる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、気軽に集うことができる場として市内21カ所で自主的に運営されている。市では運営補助金の交付や立ち上げ支援セミナーを開催するなど、認知症カフェの開設を進めている。

これらの事業を福祉のまちづくりの一環と捉えたときに、どのようなまちの姿を目指しているか見えてこないというのが現状でございます。福祉のまちづくりという観点から考えて、船橋市がどのようなイメージを描いているのかをお聞きしたいと思います。最終的な目標があることが非常に大切なことだと思っており、これからの地区社協もその目標に向かっていろいろな事業が組め、方向性も見えてくると思います。

#### ○市長

子供たちから高齢者の皆さん、そして障害のある方も安心して地域で住めること、そして制度がまだまだ十分ではなくても、お互いに連携をしていて安心

感もあっていいところだよと地域の皆さんに言ってもらえるような、住んでいる人たちが自然と笑顔になるまちづくりが大きな指標になると思います。

具体的には、地域福祉計画という平成27年度から平成32年度までの市の福祉全体の計画がありますが、現状はいろいろな計画の開始年度がバラバラになっているので、新しい地域福祉計画では、スタートラインを平成33年度に合わせられるように指標をつくり始めています。

平成28年度に参加した「JAGES（ジェイジス）」という65歳以上の方の健康づくりについての全国のアンケート調査の中で、船橋市は身体機能の低下が一番少ないまち、元気な身体機能を維持しているまちという結果が出ました。これはやはり地区社協や町会・自治会でシルバーリハビリ体操を始め、いろいろなことをやっていただいた成果が積み重なった結果であると感謝しています。また一方で、それぞれ分析した中で地区ごとの良いところだけでなく課題も出てきており、それを市だけでやるのではなく皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。6月に八木が谷地区でもやっていただきましたが、今年度から市内の24地区コミュニティーで市民ヘルスマーケティング（※）を開催しています。

（※）市民ヘルスマーケティング・・・「JAGES（ジェイジス）」の結果から見えてきた地域の特徴を市民の皆さんと共有するほか、普段感じている地域の課題について話し合い、対策を考えていくため、平成30年6月から年2回全公民館で開催している。

また、今、地域包括ケアシステムの中で高齢者の皆さんの健康づくりや医療、介護や住まいのことなどに加え、障害のある方や経済的に困難なご家庭、それと同時にそのご家庭の子供たちのことが大きな問題になってきています。

これから事業を企画する時に、今も子供たちが福祉祭りで手伝ってくれていますが、例えばそこに引きこもりがちな子供たちも含めて参加できるようなイベントを考えていただけたらいいなと思います。

新たに生まれてくる課題についての話し合いも大切です。市の職員が可能な限り地域に足を運び、直接コミュニケーションをとりながら今の状況をさらに充実させていくのが一番有効な方法ではないかと思います。

地域福祉計画の中では、住み慣れた地域で安心して生き生きと暮らせるということが一つのキーワードになっています。そのためには、例えば「この地区で、最近こんなことが課題になっているよ」ということを遠慮なく市に言っていただくとよいのではないのでしょうか。ただ、地区社協は市社協の中にあるので、あまりダイレクトにやるのは組織としてどうかという考えもありますが、市社協は市とかなり綿密にコミュニケーションをとるようにしていますので、地区社協から市社協を通してから市へというよりは、3者が同列に並んでやっていくような時期に来ていると思います。そういった意味で、もし何かあったら直接言っていただければと思います。

福祉は福祉部門の職員だけがやっているわけではないので、公民館の館長に言ってもらえるのも一つです。公民館は地域交流をやっていますし地域の様々な方々が繋がっていく拠点として活用していきたいと思っています。

## ○団体

難しい問題ではありますが、まちづくりというのは、その地域に住んでいる出来る限りたくさんの方が同じ方向を向いてもらい、これからどのように進めていくかというのが一番の課題であると思っています。これから市ともいろいろと協議しながら進めていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

それでは二つめの提案としまして、地域包括ケアシステムの具体的なマイルストーンについてお伺いします。地域の特性として八木が谷地区の人口は毎年250人位ずつ減っており、高齢化率も市の平均より10%程度高い地域になっております。そういう点も踏まえて、八木が谷地区の特性に合わせた、より具体的なお考えがあればお聞かせいただき、別の地区の成功例がありましたらそちらとの比較などもお話いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

## ○市長

地域包括ケアシステムは、建設局などいろいろな分野を加えた本部を立ち上げてやっています。最終目標は立てていますが、今はまだ具体的な目標値を掲げるところまで整理ができていないので、いつまでに何をというよりは、日々生じている様々な状況についてお話したいと思います。

八木が谷地区は、戸建てが多いのであまり問題になっていないかもしれませんが、南部や中央地域では、安心して住むことができる場所を確保することが大きな課題となっています。例えば、親戚付き合いもなく、自分の子供とも疎遠で近所の人ともあまり交流のない高齢者が、アパートの2階に上がることが難しくなってきたため転居したいとなった時に、保証人がみつからないのです。また、戸建てを改修できないのでバリアフリーの賃貸に転居したい場合、戸建ての処分に困っているような方もいらっしゃいます。

そこで船橋市では、船橋市居住支援協議会を立ち上げ、相談窓口「住まいるサポート船橋（※）」を去年の7月に設置しました。相談件数はかなり多く、実際に転居ができた方もいます。

（※）住まいるサポート船橋・・・保証人が見つからず賃貸借契約が困難であるなどの理由で住まいの確保が困難な高齢者等を支援するため、宅地建物取引業者等の関係団体と連携して、船橋市社会福祉協議会内に開設した相談窓口。民間賃貸住宅情報や、緊急通報装置の設置、身じまいといったサービスを提供する。

次に健康づくりです。例えば公園に健康器具を設置していますが、これを財政的な部分も考慮しながら可能な限り増やしていきます。目標値としては今年度29カ所から40カ所に増やし、5年位の間には170カ所程度にしたいと思っています。

すでに八木が谷地区でも実施されていますシルバーリハビリ体操は、茨城県で始まって介護認定率を下げた実績がありました。市民の方が体操指導士となり、市民が市民に教えることが大きな特徴で、体操指導士を現在の150人から2025年までに1,700人程度に増やす計画です。指導員育成のため、毎

年講習会を行っています。また、公民館で体操教室を開催して多くの方に体験していただいています。こうした市民の皆さんが主体となってやっていただく取組も大切にしたいです。

地域包括ケアシステムとしての目標値については、項目毎に実績を出していますが、細かな分析はできていません。その年ごとに検証して課題が明確になればなるほど、目標値をつくっていけるようになります。今は5年目にどうするかという事を検証している最中ですので、目標値が明確になった時にはお伝えさせていただきたいと思っています。

#### ○団体

ありがとうございます。

それでは三つめの提案としまして、ボランティアの確保と育成です。

まずは、避難行動要支援者の救助の対応について地区社協、民生委員、自治会等に市から要請がきています。私も対応したいとは思っていますが、なかなか自治会単位としては動くこともできず、また民生委員は活動範囲が広いのでこれ以上負担を増やすことはできない上、地区社協も会員のみでの対応は難しいのが現状です。地区社協と民生委員と自治会の3者による協議を十分に行わなくてはいけないと感じていますが、市から具体的な指導などをしていただけないでしょうか。

#### ○市長

これまでも、地区社協と民生委員と自治会の3者が連携をしていただいているとは思いますが、指導については行政としては非常に悩ましく、地域の自主性を尊重すべきであると思っています。ただ、市はコミュニケーションの取り方などのサポートをするという意味ではもっと関わっていけると思いますので具体的なモデルケースを提示させていただいて、あとは地域に合った形でやっていただくというのがいいのかなと思います。

## ○団体

自治会としては、地区社協に地域福祉活動のまとめ役になっていただきたいと思っています。また、市からモデルケースを積極的に教えていただけるというと思います。

## ○市長

安心登録カードの取り扱いもそうですが、例えば地区社協で避難行動の要支援者などの情報共有に関するマニュアルを作っている地区もありますので、そういった事例の紹介は確かにもっとやっていった方がいいかもしれません。

## ○団体

安心登録カードについては、自治会も同じ問題を抱えています。個人情報が含まれているため、要支援者ということを公表しにくいのが現実で、リストも自治会長が個人的に保管してそのままということが多いです。要支援者の情報は理事や班長まで共有するとしても、理事や班長は毎年変わるため、結果として全員が知る状況に陥るわけです。安心登録カードや要支援者のリストなど個人情報の保護の仕方が自治会としては非常に難しいと思っています。

船橋市は、大きな災害に遭わずに今まで過ごせているところなので、特にそういうものを使わなくて済んでいる部分があります。しかし、実際に使わなくてはならない事態が発生したときに、果たしてきちんと役立たせることができるか疑問です。

## ○市長

昔だったら「あそこの家のおばあちゃん、具合が悪いから、もし何かあったら、息子さんが3丁目に住んでいるから知らせてやらないとね」というのが地域だったはずですが、人口も増え、情報が悪用されてしまうケースなども出てきてしまい、今は行政が持っている名簿の活用も非常に悩ましくなっています。個人情報保護法では、個人の救済につながるものは情報開示が許容されるというような解釈ですが、実際には地域の皆さんがどの様にセキュリティの管理を

していくか合意をしてもらったうえで、登録してくれた方にも活用方法をお知らせしながらやっていかざるを得ないと思います。

#### ○団体

ありがとうございます。

次に、地区社協のボランティアは無償を基本としていますが、社会の高齢化に伴いボランティアも高齢化に直面しており、増加する事業の担い手としてボランティアの皆さんの確保が大変な状況になっています。そういった現状を打破し、次世代につないでいく方法として何かいいアイデアがございましたらお聞きしたいと思います。

#### ○市長

福祉団体だけでなくスポーツ関係団体や文化団体などにおいても役員そのものが高齢化しており、次の世代が入ってこない状況であるとよく聞いています。

また一方では、PTAの父親たちを中心とした「父親（おやじ）の会」という地域組織があります。実際に学校に行って清掃活動や草刈りなどのボランティアをしていますが、彼らと話したところ「年間通じての活動は非常に難しいですが、事前に何月の何日にこんな事をやるからそれだけ手伝ってという依頼については、時間があれば幾らでもお手伝いします」という方が多くいます。

更には、毎年夏休みにボランティア体験会をしていますが、広報ふなばしに小さく載るだけでも200人以上の応募が来ます。まずマッチング会に参加していただき、そこに市内の福祉施設やいろいろな施設の関係で活動しているNPOの人たちがブースをつくって団体紹介を行い、体験を希望する生徒・学生が直接申込みするのですが、毎年大盛況です。

今すぐにボランティア不足には対応できないですが、中学生くらいの子供たちが大人になるまで少しずつ経験を積み重ねていく時間をかけながら、5年から10年位のスパンで考えてやっていくのがいいかなと思います。



## ○団体

提案として、ボランティアにかかわることで自分のために何か役に立つような、例えば自分が介護を受けることとなった場合、車椅子貸し出しの一部や杖の補助の一部に使えるポイント制度を導入してもらえないかと思っています。

## ○市長

良いアイデアだと思いますが、以前、幾つかの団体にこの話を聞いた時は見解が分かれています、一生懸命できる方はいいけれど、時間がなくてあまり活動できない方の活動の芽を潰してしまうのではという意見もありました。

ただ、八木が谷地区では一生懸命やっていただいた方に感謝状をお渡ししていますよね。ご提案のポイント制度とは違いますが市としても感謝の気持ちを行動で表すことは大切ではないかと思っています。

ポイント制度については、地域だけでやるのは難しいかもしれませんがモデルケースとしてやってみていただけたらと思います。

## ○団体

地域や自治会でそういう制度をつくることができれば、若い世代で元気な方もボランティア活動に参加してもらえるかもしれませんね。この間、自治会で900数世帯に地域の助け合いの会が必要かどうかのアンケートをとりました。回答には「今すぐ必要ではないが、何年後かにはお世話になるかもしれない。それまでの間は元気だから、機会があれば手伝う」といったご意見もありました。まずは地域の中で考えるということであれば、何か取り組むことはできるのかなと感じました。

## ○市長

ぜひ、機会があればモデルケースとしてやってみてください。そうすると、多分、問題点が出てくると思いますので、それを基に次に向けて皆で考えることができると思います。

市も全く別の観点からになりますが10月から健康ポイント制度を始めます。これは、地域包括でいろいろなデータをとった時に、健康に関心の薄い方、取

り組むきっかけのない方も健康づくりを行う動機づけとなればと思い、導入を決めました。ボランティア活動のポイント制度についてはこれからも勉強していきます。

#### ○団体

ありがとうございます。最後に後継者の育成についてですが、八木が谷地区福祉まつりにも多くの中学生が参加し、長年この地区で福祉に貢献された方の表彰の手伝いや、抽せん会の賞品の受け渡しをしていただいています。とてもうれしそうに笑顔で動いています。すごく勉強になりますという言葉も聞いたこともありまして、大変感動しました。また、夏休みには毎年20～30名の中学生や高校生がミニデイサービスなどの各種事業にボランティアで参加してくれています。最後に感想文を書いてもらっていますが、もう一步踏み込んで評価をしてあげられたらなと思います。例えば、事業会場に市の担当職員に来ていただいて、ボランティアを経験した子供たちにこの地区の将来を考えるにはどうしたらいいかといったテーマを掲げて意見を聞く、これが将来につながるような気がします。ただ感想文だけで終わると、やったという満足感だけでこの地域について真剣に考えるという時間がちょっと足りないように思えます。

#### ○市長

そうですね。私も福祉まつりで中学生たちが一生懸命、ニコニコしながらやっている姿を見ていると、本当に幸せな気持ちになります。

昨年、市制80周年を機に子供たちに船橋で育った意味をちゃんと教えようというのを教育大綱の中に位置づけました。そこで「船橋のあゆみとみらい」というDVDを小学生用と中学生用それぞれつくって、全員に見てもらい、これからの船橋についての作文を書いてもらいましたら、1,650通位届きました。それぞれ本当にすばらしいのですが、その中の小学2年生の子の作文を一つ紹介させていただきます。これは市長賞でも教育長賞でもありません。また、先生も保護者も全く手をつけていない、子供が素直に書いた作文です。

## チーム船橋

船橋市ってすごいんだな。今日、学校で「船橋市のあゆみとみらい」というビデオを見て僕は思いました。ビデオには、僕が生まれる前の学校やいろいろなお店、お祭りなどがたくさん映っていました。今の船橋市は、アンデルセン公園や梨の妖精のふなっしーが自慢できるけど、今、僕たち子供がもっと頑張れば、昔も楽しかったけど今はもっと楽しいねと自慢できるような未来になるんだと思いました。僕は未来をよくしたいです。だから今、何をすればいいのか考えました。でも、1人で考えたり何かしたりするのは難しいので未来をよくしたいと思っている誰かとチームをつくって考えたいです。そして、船橋市が100歳になったとき、僕が船橋市を支えていきたいと思います。

(拍手)

こういう作文がたくさん載っています。今の子供たちは、いろいろな思いを持って来ていますし、この子供たちの可能性を引き伸ばしてあげられるような地域、学校にすることが私たちの一番の役割なんじゃないかと思っています。

船橋市の成人式は、数年前に企画した先輩たちも手伝ってくれますが、新成人が企画をし、実行委員として進行などをしていきます。ガヤガヤはしているのですが、不思議とヤジはなく自分たちの仲間がやっているので声援が飛んでいて本当に一体感があります。毎年、実行委員に「みんなが船橋で生まれたとか、育ったなって感じるのはどういうとき？」って聞いていますが、共通して返ってくる答えが2つあって、一つは学校、もう一つはお祭りです。お祭りを開催するのは本当に大変だと思いますが、次の子供たちの時代のためにとても大切な役割を担っていただいていると思っています。

## ○団体

今日いろいろと教えていただいたことを頭の中に入れ、市としっかりと連携し、もっともっと住みやすい地域づくりができればいいなと思っておりますので、今日はこのような機会をつくっていただきましてありがとうございました。

○市長

今日はどうもありがとうございました。明確にお答えできなかった部分があって申し訳ありませんが、確実に言えることは皆さんが活動していただいているおかげでまちが成り立っているということです。

そして、船橋市はいろいろな所から移り住んでこられた方が多いまちですがその人たちが自分の子供たちのためにと始めた祭りが今も続いている、こういう事が船橋市の本当に大きな財産だと思っています。

皆さんが懸念されているボランティアの件は、まさしくこの櫛（たすき）を誰に渡したらいいのかという悩みや不安だと思います。それは、市でもまちづくりをする上で本当に大きな課題ですが、意欲を持っている30代・40代・50代の人たちもたくさんいるので、その方たちが参加しやすい形は何かというのをしっかりと勉強していき、また皆さんのご意見もお伺いしていければと思っています。

皆様方の活動、ご尽力に心から感謝しております。一緒にやっていけるといのが本当に一番の力だと思いますので、これからもよろしくお願いします。

— 了 —